

大阪インターナショナルチャーチ
ジョセフ・トッティス牧師
2012年10月28日
キリストによってのみ！

「これしなさい」「これはしてはいけない」と言われるのが好きな人はどれくらいいるのでしょうか？ 私はクリスチャンになる前は、そういわれるのは大嫌いでした。だからクリスチャンになるのをためらっていたくらいです。自分がしたいことではなく、しなければならないことというのは嫌なものです。何をいつするかは、自分で決めたかったのです。ですから、聖書の教えの通りに動くことを最後までためらっていました。ですが、聖書で神様がおしえておられる教えを拒めば拒むほど、自分の罪の奴隷になることを知ってしまったのです。

ローマ 6:16 あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。

20節を見てみましょう。

ローマ 6:20 罪の奴隷であった時は、あなたがたは義については、自由にふるまっていました。

わかりますよね？ 聖書で神様がおしえておられる教えを拒めば拒むほど、自分の罪の奴隷になってしまうんです。振り返ってみると、自由や幸せ、満足をもたらしてくれるはずだったものが、実は空虚さをもたらし、それをもっと欲していることに気づくのではないのでしょうか。

21節以降を見てみましょう。

ローマ 6:21 その当時、今ではあなたがたが恥じているそのようなものから、何か良い実を得たでしょうか。それらのものの行き着く所は死です。

ローマ 6:22 しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。

ローマ 6:23 罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

永遠のいのちという賜物：究極の自由と平和と満足・・・それはどこにありますか？

私たちの神イエス・キリストにあります。

これこそ、コロサイでパウロが言っていることです。

私たちの救い、罪と死からの解放はキリストにおいてのみ、見出されるものです。

コロサイ 2:6 あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあって歩みなさい。

コロサイ 2:7 キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教えられたとおりの信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。

コロサイ 2:8 あのむなしい、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。それは人の言い伝えによるもの、この世の幼稚な教えによるものであって、キリストによるものではありません。

だれにも欺かれることのないようにしてください。

コロサイ 2:3 には、「キリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです」とあります。

科学者や医者たちが発見したと言われるものは、大昔に神様が創造なさったものにすぎません。

もし車を直したいなら、修理屋さんに行ってください。オイル交換の方法は聖書には書いてありませんから。

骨折したのなら、医者に行ってください。骨折の治し方は聖書には出ていませんから。

でも、ストレスや心配事、疑いや孤独、苦々しい思いといった魂の悲しみはどうしたらいいでしょう。

セラピストやテレビや親友が癒してくれるよという人もいるかもしれませんが。

でも、知っておいてください。

聖書は傷ついた心や失われた魂に、とても効くんです。

ダビデ王はこう言います。

詩篇 23:3 主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。

またイエス様はこう言います。

マタイ 11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

マタイ 11:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

コロサイ 2:8 あのむなし、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注意なさい。それは人の言い伝えによるもの、この世の幼稚な教えによるものであって、キリストによるものではありません。

ローマ 12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまを知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

人間関係などに悩んで、人が私にカウンセリングや助言を求める時、私は注意深く聖書の言葉を分かち合うようにしています。

ヘブル 4:12 神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

2コリント 10:4 私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

2コリント 10:5 私たちは、さまさまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、

言いかえれば、

人からの助言や伝統、社会的プレッシャー、文化が期待することと神の知識を比べてみてください。

それは神の言葉に沿っていますか？それとも対照を成していますか？

もしそれが対照を成しているのなら、聖書は明確にこう言います。

それを打ち砕け！と。

つまり、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させるのです。

神の言葉を聞き、正確に理解しながら、正反対のことをしてしまう人を見る時、私は驚いてしまいます。

神の言葉を聞き、気に入らなくて、他の人からのアドバイスに従う人もいます。

ここに大きな問題があります。

人は自分のしたいようにしたいということです。

これは神様に出会う前の私の人生のようです。

ノンクリスチャンが、神様の言葉を拒絶するのも理解できます。でもクリスチャンと自称する人が神の言葉に従わないのは理解できません。

でもこうなることも聖書では予測されています。

2テモテ 4:3 というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言うてもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、
2テモテ 4:4 真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。

コロサイでパウロはこう語ります。

コロサイ 2:8 あのむなし、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。それは人の言い伝えによるもの、この世の幼稚な教えによるものであって、キリストによるものではありません。

コロサイ 2:9 キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。

神の満ち満ちたご性質がキリストのうちに形をとって宿っているのですから、キリストが「半分神様」でも「神様ジュニア」でないこともわかるでしょう。

これはイエス・キリストの神性を堂々と宣言している箇所なんです。イエスは100パーセント神なのです。

1テモテ 3:16 確かに偉大なのはこの敬虔の奥義です。「キリストは肉において現れ、霊において義と宣言され、御使いたちに見られ、諸国民の間に宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた。」

キリストは肉において現れました。

これは「託身」ともよばれるもので、神様が人間の形をとって、この世に来られたのです。それは、クリスマスとして知られています。

コロサイ 2:10 そしてあなたがたは、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです。

新約において「支配と権威」というのは天使について語るときに用いられます。

それゆえパウロはここで、キリストは天使のかしらであり、権威をもっておられると宣言しているのです。モルモン教ではイエスは悪魔の兄弟だと説きます。また、エホバの証人は、イエスは大天使ミカエルだと説きます。

でも違います、イエスは神なんです。

コロサイ 1章を見てみましょう。

コロサイ 1:16a なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。

「支配も権威も」とまた出てきましたね。先程述べたとおり、これはサタンも含む天使の勢力をあらわします。

コロサイ 1:16b 万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。

コロサイ 2:11 キリストにあって、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨て、キリストの割礼を受けたのです。

コロサイのクリスチャンの大半は肉体的には割礼を受けていません。当時「ジュダイザー」と呼ばれた、ユダヤの慣習に従って生きるクリスチャンは、異邦人も神の目に正しくなるためには割礼を受けないといけないという立場をとっていました。ここでパウロは、霊的な割礼は身体的に割礼を受けるのよりもずっと重要であることを断言しています。ユダヤ人男性は皆肉体的な割礼を受ける必要がありますが、キリストによる割礼はそういうものではありません。

旧約聖書でさえ、割礼には2種類あると認めています。つまり一つは肉体的なもの、もう1つは心の割礼

ということです。

申命記 10:16 あなたがたは、心の包皮を切り捨てなさい。もううなじのこわい者であってはならない。
申命記 30:6 あなたの神、【主】は、あなたの心と、あなたの子孫の心を包む皮を切り捨てて、あなたが心を尽くし、精神を尽くし、あなたの神、【主】を愛し、それであなたが生きるようにされる。

単なる肉体を切り捨てるのではなく、クリスチャンの割礼とは霊的に心から罪をはぎ取ることの意味します。

ガラテヤ 5:6 キリスト・イエスにあっては、割礼を受ける受けないは大事なことではなく、愛によって働く信仰だけが大事なのです。

神とともに立ち、愛によって働く信仰だけが大事なのです。これが、私たちが神とともに歩む本当の力となり平安となるカギとなります。神との関係が密になると神のすばらしい愛をすべての人、特に信仰を持っている人と分かち合いたくなります。キリストの愛が心から湧き上がると、心から純粋な動機をもって他の人のもとへと行きたくになります。それはほかの人に良く思われたいとか天国で点数を稼ぐとか、そういうものとは全く違います。神を愛するがゆえに、神の子どもを同様に愛するのです。愛によって互いに仕えあうのです。愛ゆえに互いに与えあいます。愛から、互いに奉仕しあうのです。

私たちはもはや点数稼ぎのために燃え尽きたり、人に優しくしたのに優しくしてくれないからといって恨む必要はないのです。神の愛ゆえにお返しに優しさ、報酬や喝采を期待することなく、他の人に仕えることができるのです。ですから、クリスチャン生活の大切な点は、単に儀式を守るのではなく、愛を通してキリストへの信仰を追求することだということがわかるはずです。

コロサイ 2:12 あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。

誰がキリストを死者からよみがえらせたか？ 神様ですよ。

ヨハネ 2:19 イエスは彼らに答えて言われた。「この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日でそれを建てよう。」

ヨハネ 2:20 そこで、ユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てるのに四十六年かかりました。あなたはそれを、三日で建てるのですか。」

ヨハネ 2:21 しかし、イエスはご自分のからだの神殿のことを言われたのである。

ではここでは、イエス様は誰が彼を死からよみがえらせると語られていますか？ イエス様自身ですよ。

ローマ 8:11 もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられる御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かしてくださるのです。

ここでは、私たちクリスチャンの心に住まわれる聖霊が、イエス様を死からよみがえらせたと書かれています。

ローマ 6:4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。

では、どのようにしてキリストは死者の中からよみがえられましたか？御父の栄光によって、です。ここに、イエス様を死からよみがえらせた三位一体の神が出そろいました。

コロサイ 2:12 あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。

父なる神、御子、聖霊ですね。

さて次にパウロは洗礼について語ります。

コロサイ 2:12 あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。

クリスチャンの洗礼というのは、イエスの死とよみがえるを私たちが一体となって感じることを表しています。

つまり、「キリストとともに葬られ」というのは水に浸かることで、キリストとともによみがえらされた」というのは、水から引き上げられることです。

コロサイ 2:13 あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、

パウロは割礼と洗礼が同じものであるとは言っていないませんが、洗礼によってイエス様と一体となって感じ、それを示したのですから、私たちが救われるために割礼する必要はありません。

ですから律法に固執したこの命令を何かで置き換えるということをしてないように、注意しないといけません。

もし人が洗礼を受けていないなら、救われていないというグループもあります。イエス様自身が私たちに洗礼という権限を与え、キリスト自身も洗礼を受け、愛とキリストへの従順から洗礼を受けたいという気持ちになるべきではありませんが、水による洗礼によって罪が許されたり、救われたりするわけではありません。

違います！

そうではなくて、私たちはキリストを信じることを通して得る恵みによって、救われているのです。

イエス様の両脇で十字架にかけられた罪人のことを覚えていますか？そのうちの一人はキリストを信じ、こう言いました。

ルカ 23:42 そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときには、私を思い出してください。」

イエス様は何と言いましたか？ 「ごめんね、でも救われるためには洗礼を受けないといけないんだ。残念だったね」。彼はこう言いましたか？いいえ！イエス様は何と言われたでしょう？

ルカ 23:43 イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」

私たちは洗礼を通して救われるわけではありませんが、それでもイエス様は私たちに洗礼を受けるように言われます。今日とは違い、初期の教会は洗礼を受けていないクリスチャンという考えを理解しようとしませんでした。

イエス様は言われます。

ヨハネ 14:15 もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。

ですから、もしあなたがキリストを愛しているなら、戒めを守るはずです。これは義務ではないことに気づきましたか？これは愛による行動です。しなければならないから、ではなくて、したいからなのです。これは大きな違いですよ。なぜ私たちはキリストを愛するのでしょうか？

ヨハネ 4:19 女は言った。「先生。あなたは預言者だと思います。」

イエス様は……

コロサイ 2:14 いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちに責め立てている債務証書を無効

にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。

十字架によって個人的な罪が許されただけでなく、私たちが責め立てている債務証書が無効にされ、十字架にくぎ付けにされたのです。

コロサイ 2:15 神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。

ここでいう支配と権威というのは、サタンと墮天使を示唆します。パウロは、キリストや私たちの対抗勢力が十字架上でキリストによって打ち負かされたことを描写しているのです。

このキリストの勝利を描写するのに、パウロは武力の勝利という例えを用い、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えたという表現を用いました。サタンとその勢力は、十字架はキリストではなく彼らの勝利になると思っていたのですが、現実には、私たちの神が敵を打ち破り、彼らを武装解除してさらしものとしたのです。

パウロは、私たちがキリストにおいてのみ完全であることを、コロサイの信者によって表しています。

キリストにあって、コロサイの人々は肉のからだを脱ぎ捨て(11 節)

新しいいのちを得て(12, 13 節)

罪許され、伝統的には課された定めを無効にされ(14 節)

支配と権威から解放されました(15 節)

キリストへの信仰によって受けるものに、クリスチャンは何も付け加える必要がありません。

クリスチャンが完全であるためには何らかの特別な知識や働きが必要であると信じるグノーシス派や「ジュダイザー」を反駁するために、パウロはキリストの完全さを強調しました。

コロサイ 2:16 こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは、祭りや新月や安息日のことについて、だれにもあなたがたを批評させてはなりません。

コロサイ 2:17 これらは、次に来るものの影であって、本体はキリストにあるのです。

イエス様が十字架上で栄光の勝利を勝ち取ったのですから、だれにも律法主義によって私たちが裁かせてはいけません。

キリスト中心の生活や十字架でキリストが成されたことに、律法主義が入り込む隙はありません。

ここでのポイントは明確です。モーセの律法に記された日にちや食べ物についての取り決めは、キリストを信じる者への新しい契約とは全く関係がありません。これらの取り決めが悪いとは言いませんが、ただそれらは次に来るものの影にすぎないということです。一度本体、つまりキリストが来られたら、影の出る幕はないということです。

例えば私がしばらく旅行をして、美しい妻エイミーに会えるのを楽しみに家に帰るとします。互いに駆け寄り、いよいよ抱きしめあうというその瞬間、エイミーが床に映った私の影にハグしキスする……ということがあり得るでしょうか？

ここでわかるように、クリスチャンにとって影は過ぎ去り、実体であるキリストが来られたのです。

クリスチャンにとって、すべての食べ物は混ざり気がなく、すべての日が神に属するのです。

ローマ 14:5 ある日を、他の日に比べて、大事だと考える人もいますが、どの日も同じだと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。

それゆえ、

コロサイ 2:18 あなたがたは、ことさらに自己卑下をしようとしたり、御使い礼拝をしようとする者に、ほうびをだまし取られてはなりません。彼らは幻を見たことに安住して、肉の思いによっていたずらに誇

り、
コロサイ 2:19 かしらに堅く結びつくことをしません。このかしらがもとになり、からだ全体は、関節と筋によって養われ、結び合わされて、神によって成長させられるのです。

キリストによる救いだけにしがみつかない人は、謙虚に見えることがあるかもしれませんが。でも、新しい霊的体験を模索したり、信仰には努力も必要と吹聴するのは、人間のプライドでしかありません。

ガラテヤ人への手紙でパウロが言ったことを思い出してください。

ガラテヤ 1:6 私は、キリストの恵みをもってあなたがたを召してくださったその方を、あなたがたがそんなにも急に見捨てて、ほかの福音に移って行くのに驚いています。

ガラテヤ 1:7ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるわけではありません。あなたがたをかき乱す者たちがいて、キリストの福音を変えてしまおうとしているだけです。

ガラテヤ 1:8しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。

ガラテヤ 1:9 私たちが前に言ったように、今もう一度私は言います。もしだれかが、あなたがたの受けた福音に反することを、あなたがたに宣べ伝えているなら、その者はのろわれるべきです。

人々が何度も、聖書に今まで誰も発見したことのないような洞察をしてきたことは興味深いことです。もしあなたが特にどこかの箇所、今まで誰も知らなかったような目新しい発見をしたと言うなら、あなたは間違っています。

2ペテロ 1:20 それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。

今まで誰も見つけられなかったような神秘的な洞察というのは存在しないのです。神の真理を特別に理解できるなんてことは、ないでしょう。

「みんな間違っているよ。教会も聖書の注解者も間違っている。でも僕は真理を見つけたよ。今の今までこの真理は隠されていたが、神様が僕にこの秘密を明かされたんだ」という人がいるかもしれません。これは、モルモン教会がまさにしたことなのです。

モロニと呼ばれる天使がジョセフ・スミスに来て、彼にすべての教会は間違っており、新しい啓示を与えたと言います。

でも、パウロは何と言っていますか？

ガラテヤ 1:8しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。

2コリント 11:14 b サタンさえ光の御使いに変装するのです。

ですからこのような者たちには注意しないといけません。なぜなら、どの聖句にも天使や私的な解釈を加えてはいけないからです。神が意味するところを語り、語られたことの意味を決めるのも神なのです。

コロサイ 2:20 もしあなたがたが、キリストとともに死んで、この世の幼稚な教えから離れたのなら、どうして、まだこの世の生き方をしているかのように、

コロサイ 2:21 「すぎるな。味わうな。さわらな」というような定めに縛られるのですか。

コロサイ 2:22 そのようなものはすべて、用いれば滅びるものについてであって、人間の戒めと教えによるものです。

コロサイ 2:23 そのようなものは、人間の好き勝手な礼拝とか、謙遜とか、または、肉体の苦行などのゆえに賢いもののように見えますが、肉のほしいままな欲望に対しては、何のききめもないのです。

クリスチャンは儀式的な定めから解放されたのに、どうしてまたそこにとどめ置こうとするのですか？キリストが成されたことに、私たちが付け加えることは何もありません。イエスの十字架だけが神の目になつたものなのです。律法主義的な要求は好き勝手な礼拝にすぎず、救いには何の関係もありません。

私たちの救いは、キリストによってのみ成されるのです。